

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

| H31 入学 現6年生 | 国語 | | 算数 | |
|----------------|----------|----------|----------|----------|
| | R5 (5年時) | R6 (6年時) | R5 (5年時) | R6 (6年時) |
| | 県 (4月) | 全国 (4月) | 県 (4月) | 全国 (4月) |
| 平均正答率 | 65.4 | 71.0 | 60.3 | 61.0 |
| R6 県比 | 0.97 | 1.08 | 0.98 | 0.98 |
| R6 全国比 | | 1.04 | | 0.97 |

◎ 5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の結果。

◎ 「R6 県比」は県平均正答率を1としての比較。

◎ 「R6 全国比」は全国平均正答率を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

【学習状況調査】

- ・資料を読み取ることや資料からわかることを説明することに課題が見られる。読解力の育成が必要。
- ・前の学年の学習内容の理解が不十分なので、既習事項の定着を図る必要がある。

【意識調査】

- ・「授業でわかったことをまとめる活動を行っている」と回答した児童が8割を超えるが、「わかったことを発表できている」と回答した児童は5割。学習に自信を持っていない実態がある。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・どの教科においても、ふりかえりの時間を設け、授業で学んだことや友達の良い考え、さらに学習したいことなどをまとめさせることで、学習の定着を図る。
- ・算数では、学習の理解度に合わせて学習内容や分量を選択させて学習に取り組みせ、既習事項の定着を図る。
- ・「算数道場」と題して学年ごとに集中して取り組む時間を設定し、管理職・級外など複数の教員で指導に当たる。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・朝の時間(10分)を「読書タイム」と設定し、全校で読書をする時間を設ける。
- ・読書を推奨し、読書をする習慣を身に付けせる。
- ・自主学習に取り組み、家庭学習の充実を図る。
- ・低学年のときから、話し言葉において、主語と述語を意識させる。